

交流・定住人口増やす活性化の呼び水に

山梨県身延町(望月幹也町長)は、全国に誇るブランド大豆「あけぼの大豆(ことば参照)」の産地。生産性向上と加工品の開発、販路の拡大に積極的に取り組む。ブランド力をより高めるため、町では経済活性化による雇用の創出や観光産業との連携による交流・定住人口の拡大をめざしている。

町・農家一体で品質維持

一般的な大豆の5倍の高値

礫岩層の土壌で水はけがよい同町の曙地区は、朝霧の頻繁な発生による適度な保水性が作用して、あけぼの大豆の栽培に適している。

あけぼの大豆は極晩生品種。6月中旬から7月上旬に種をまき、8月中旬の開花、10月の枝豆収穫、大豆の収穫は11月下旬から12月中旬と一般の大豆と比べ約1カ月間の差がある。

生産者の把握や品質の統一、町外への流出防止

のため種子は町が一括で管理。種子購入者への配

布も町が行う。生産者は他品種との交配を防ぐため圃場の分離などを徹底し、何世代にもわたって種子を選抜することであけぼの大豆の生産と品質を維持してきた。

希少価値や品質の高さなどから、地元JAでの買取価格は一般的な大豆の全国入札取引平均価格より約5倍の高値で取引される。

山梨・身延町



あけぼの大豆の枝豆
(浅野さん提供)

ことば
あけぼの大豆
山梨県身延町曙地区
の標高3000m

大豆に含まれるシヨ糖(砂糖の主成分)の総量が一般的な大豆の1.2倍。

700m、昼夜の寒暖差が10度以上の里山で栽培された在来品種の大豆。曙地区で採取し1年目の種子を使って、町内で栽培したもののだけが認められる。

地理的表示に登録

特徴は、粒が大きいことと甘みが強いこと。一般的な大豆の直径は0.8センチほどだが、あけぼの大豆は同1.2センチ、100粒の重さは67.6gと、一般的な大豆の1.6倍ある。また、

大豆に含まれるシヨ糖(砂糖の主成分)の総量が一般的な大豆の1.2倍。

22年、山梨県内の農産物・加工品で初めて農水省が知的財産として保護する地理的表示(GI)保護制度に登録された。野菜類(枝豆)、穀物類(大豆)の二つのカテゴリーで登録されたのは全国初。栽培面積約30ha、生産者数約300人、出荷量(JA出荷分)枝豆17.3t、大豆10.2t、販売額(JA販売分)約4千万円(21年度)。



たわわに実ったあけぼの大豆

特産「あけぼの大豆」で地域振興

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

遊休地整え、栽培面積広げ

加工品開発、オンラインで販売

産地化の契機は2015年。遊休農地の増加や高齢化による担い手不足などの危機感から、農地管理や地域を活性化するために、基盤整備の必要性を感じ、町内各地で話し合いが活発化した。翌年、種子確保と安定生産、品質向上と6次産業化をめざして、生産者、在来種曙大豆保存会、JA、町商工会、町、県とで「身延町あけぼの大豆振興協議会」を設立。統一した生産ルールを作った。ブランドを確立しようという活動を始めた。並行して中山間地域総合整備事業により遊休農地を整備し、集約した農地は中間管理事業を活用して担い手農家に集積して栽培面積を広げた。

合整備事業により遊休農地を整備した。施設が整備されたことで生産者ごとに行っていた選粒や選別の基準が統一でき、品質向上につながった。

振興協議会の望月悟良会長は「遊休農地防止のために、あけぼの大豆を振興し移住者や就農者を確保したい」と話す。

廃校を拠点施設に

17年には、中山間地域所得向上支援事業などを活用して、統合で廃校になった小学校の空き校舎を再利用して集荷選別、出荷、加工を一体的に行う「あけぼの大豆拠点施設」を整備した。



あけぼの大豆振興協議会の望月会長(右)と前会長の佐野さん



町では知名度を上げるため、19年にオンラインショップ「あけぼの大豆ONLINE(オンライン)」を立ち上げ、情報提供サービスを通じた交流人口の獲得に乗り出した。枝豆をベースにした「極上枝豆ポタージュの素」や枝豆を練り込んだ「ジャンボシユウマイ」などの冷凍食品はリピーターも多く、町に雇用を生み出している。

毎年10月下旬、都市と農村交流の一環として枝豆収穫祭「あけぼの大豆産地フェア」を開き、収穫体験や直売会を行っている。昨年は町内11カ所に開かれ、隣接県市町村



過去に開かれた「あけぼの大豆産地フェア」での収穫体験(身延町提供)



「交流に弾みを」

から来場者3千人以上(同町の人口の約3分の1)でにぎわった。

コロナウイルス感染症の影響で3年前から収穫体験は行えなかったが、各会場で事前予約制による枝葉付き枝豆直売会を開いて観光客を呼び込み、交流人口の拡大につなげた。来場者とのふれあいを大切にする協議会前会長の佐野和彦さんは、21年に全線開通となった中部横断自動車道についても触れ、「アクセスの向上を活かし、交流に弾みを」とフェア開催に期待を込める。